

村上 直著

## 『論集 代官頭大久保長安の研究』

揺籃社 二〇一三・四刊

A5 四四八頁 二八〇〇円

新刊紹介は、著者と関心ある読者とを引き合わせるコーディネート役と心得るが、その一方を欠く新刊紹介となってしまったのは残念である。本書は、今年二月に逝去された村上直氏の最後の著書である。

本書にはやや異例のいきさつがある。まず、東京都八王子市で結成された市民の会である「大久保長安の会」の有志の発案により本書が出版されたという点である。会の有志から「大久保長安研究の第一人者である村上直先生の論文からトータルに学んでいく必要があるので、村上先生の大久保長安関係の論文を一冊にまとめた本を出版することができないか」という相談が本書の編者馬場憲一氏に寄せられ、実現したという。「大久保長安の会」と同じ希望を、日本近世の幕領研究者・鉦山史研究者・関東地域史研究者らも持っていたにちがいない。本書あとがきに挙げられているように、村上氏がこれまで執筆された大久保長安関係論文は二八編にのぼり、その中から中核的な論文一五編が本書に収められている。村上氏は精力的に研究を発表されていたため、論文数も多く、かつ入手にくい地方史研究雑誌等に発表された論文もあった。そのため、若い研究者や学生にとっては、どの論文を読ん

だら氏の示す大久保長安像をたどれるのか把握しづらい向きがあった。地域の歴史を学ぼうとする市民から研究者まで待望の書であり、村上氏・編者馬場氏・「大久保長安の会」が手を取りあつてこの本が結実したことを喜ばしく思う。なお、体調のすぐれない村上氏に代わって編者馬場氏が一冊の研究書として整えた。

本書は以下の五章構成となっている。

I 大久保長安の出自と甲斐／II 大久保長安の在地支配と初期幕政／III 大久保長安と石見銀山の支配／IV 大久保長安と佐渡鉦山の支配／V 大久保長安の実績と人物考

I は、甲斐武田氏家臣時代を中心に、大久保長安の出自や蔵前衆（蔵前地の年貢を取り扱う代官に近似した役職）としての活動の痕跡をたどる四編、II は、関東に移封された徳川家康に臣従した後の大久保長安の代官頭としての活動や、初期幕政に参画した長安の立場について論じる五編、III は長安と石見銀山の関係を論じる二編、IV は佐渡鉦山との関係を論じる二編、V は、大久保長安発給文書や長安関係の旧跡・文化財等の情報から構成した二編からなる。本書には、長安の足跡を示す同時代史料ばかりでなく、江戸時代中期に成立した伝記史料や事績顕彰史料に基づく考察もあり、それにより、猿楽師の出身で、在地支配・鉦山開発等の功績により異例の出世を遂げた謎めいた人物としての印象が強い大久保長安に対する村上直氏の総合的評価を知ることができる。長安の謎を読者なりに解釈できる内容となっている。

(戸森麻衣子)